

地域の未来を創る人財育成のために ～郷土で学び夢を拓く心豊かなひとづくり～

広島県立熊野高等学校学校図書館

1 本校の目指す生徒像

- ・ルールとマナーを遵守し、相手の立場に立って自ら考え、他者と協働し主体的に行動できる生徒
- ・学校行事に積極的に取り組むとともに、自律的な学習者として、メリハリのある生活を送る生徒
- ・果敢に挑戦して、自分自身を見つめる視点を高め、進路実現に向けて、粘り強く努力をする生徒

(1) 本校の課題と図書館リニューアル



校内研修において、本校の生徒の課題(つきたい力)を共有した際に最も多く挙げられたのは「学び続ける力」であった。

ソフト面では「授業や行事の改善」を始めとするカリキュラム・マネジメントを行う一方、ハード面を整える一手として図書館リニューアルが実施された。

それを通して授業改善や読書体験の増加、好奇心の醸成を図ることをねらったものである。



図書室から一時保管場所の部屋へ向けて全生徒を1列に並べ、バケツリレーの要領で本も椅子や机など動かせるものはすべて運び出します。

2 リニューアルの計画

(1) 日程

- 随時 書籍の整備(新しい本の購入、不要図書の廃棄)
生徒、保護者、地域へのボランティア募集
- 6/26 生徒による図書の運び出し(1年・LHR)
- 7/10 生徒による図書の運び出し(2年・LHR)
- 7/17 生徒による図書の運び出し(3年・LHR)
- 7/23~25 リニューアル当日

(2) 体制

- 助言者 赤木かんこ氏(児童文学評論家)
- 司書教諭、非常勤事務職員(学校図書館担当) 各1名配置
- ボランティア参加人数 生徒156名(3日間延べ)
保護者や地域の方56名
(3日間延べ、教職員を除く)

(3) 当日の作業内容

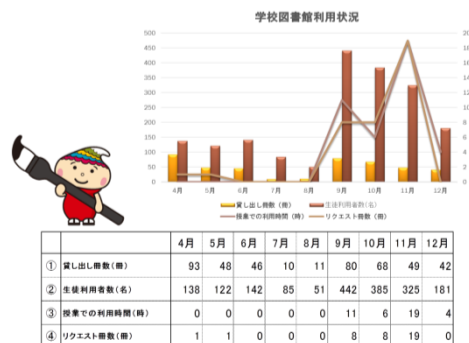
- 3日間通しての作業** 本の整理、新着図書のブックカバー装飾、ポスター・パネルサインの作成
- 1日目** カーテンをすべて洗濯、床磨き(メラミンスポンジや雑巾等)、天井・窓・壁・蛍光灯の掃除、書架の解体、書棚の運び出し
- 2日目** カウンター・展示ケース・木製の書架の布貼りやペンキ塗り、テーブルクロス縫製、書架の設置、ソファやカーペットの搬入、赤木先生による不要図書の選別
- 3日目** 棚サインの貼付、パネルサイン・ポスターの貼付、図書の配置



3 リニューアル後の成果と課題

(1) 学校図書館利用状況

リニューアル前とリニューアル後の利用者人数を比較すると実に3倍に増加した。その一方で、図書貸出冊数は伸び悩んでいる状況である。原因としては、廃棄した書籍の代わりに買ったのが、大型の図鑑や絵本などが多く、持ち運びが容易でないことであったり、高校生が借りるにはやや抵抗を感じたりすることが推測される。また、元から図書館、読書が好きな生徒にとっては、リクエスト冊数の増加に示されるように、やや物足りない印象を受けるようである。その点に関しては、リクエストや要望に応じ、書籍の購入を進めているところであり、赤木先生から示された「図書館は常に利用者のニーズに合わせた変化が求められる」という助言どおりの対応を行っている。



2学期には、プロジェクト等ICT機器、ならびにLED照明の設置工事を行い、授業で積極的に活用されるなど、さらに使いやすく、そして明るい図書室へと進化している。



(2) 書籍の配架について

今回のリニューアルに際して、NDCの分類ではなく、ジャンルごとの配架に変更された。たとえば、陸上競技コーナーに『子どもの走り方トレーニング』がある一方で、陸上をテーマにした小説があったり、料理コーナーレシピ本と共に料理をテーマにした漫画があったりするような配架である。そのジャンルに興味のある生徒が、自然と小説へと手を伸ばせるような利点がある。デメリットとしては、棚サインの配置に該当しない図書の配置に(生徒も教員も)苦慮している(棚サインが固定している点も含めて)。特に、館内がNDCの順序になっていないので利用者にとっては図書を探すのが難しい。

(3) 授業以外での活用

以前より本校では「くま・みら・カフェ」と名付けられた、地域の人材育成に資するよう、ラジオDJであり Cocoro-to Production 代表取締役の松川友和氏を招いて様々な活動を行ってきた。加えてリニューアル以降は「くま・みら・カフェ」番外編として、熊野町の要請の下、熊野町中学生と熊高生のワークショップ(テーマ「10年後の熊野町はどんなまちになっている?」「私が町長だったら●●なまちを作るため、▲▲に取り組みます。」)が開催されるなど、活用の幅は広がっている。